

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年10月15日
【四半期会計期間】	第24期第1四半期(自平成24年6月1日至平成24年8月31日)
【会社名】	株式会社 I G ポート
【英訳名】	IG Port, Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 石川 光久
【本店の所在の場所】	東京都武蔵野市中町二丁目1番9号
【電話番号】	0422 - 53 - 0257
【事務連絡者氏名】	管理担当執行役員 中野 広之
【最寄りの連絡場所】	東京都武蔵野市中町二丁目1番9号
【電話番号】	0422 - 53 - 0257
【事務連絡者氏名】	管理担当執行役員 中野 広之
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第23期 第1四半期連結 累計期間	第24期 第1四半期連結 累計期間	第23期
会計期間	自平成23年 6月1日 至平成23年 8月31日	自平成24年 6月1日 至平成24年 8月31日	自平成23年 6月1日 至平成24年 5月31日
売上高(千円)	1,457,594	1,253,274	5,499,967
経常利益又は経常損失()(千円)	128,844	105,452	69,656
四半期(当期)純利益又は四半期純損失()(千円)	86,298	138,182	34,752
四半期包括利益又は包括利益(千円)	86,338	121,160	34,921
純資産額(千円)	4,138,698	4,087,401	4,087,281
総資産額(千円)	5,831,388	6,582,615	6,686,031
1株当たり四半期(当期)純利益金額 又は四半期純損失金額()(円)	1,807.36	2,894.00	85,601.11
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	71.0	60.0	61.1

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、第23期第1四半期連結累計期間及び第23期は、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、第24期第1四半期連結累計期間は、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の復興需要等を背景に、緩やかな景気回復傾向の兆しが見られる一方、欧州の債務問題や円高の長期化、新興国の景気減速の懸念等、先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような事業環境のもと、当社グループはアニメーション作品の企画・制作を行う映像制作事業、コミック雑誌等の企画、製造、販売を行う出版事業、作品の二次利用による印税・収益分配金等を得る著作権事業に取り組んでまいりました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は1,253,274千円（前年同期比14.0%減）、経常損失は105,452千円（前年同期は128,844千円の経常利益）、四半期純損失は138,182千円（前年同期は86,298千円の四半期純利益）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

映像制作事業

映像制作事業におきましては、テレビ用アニメーション「黒子のバスケ」「輪廻のラグランジェ」「宇宙戦艦ヤマト2199」等、ビデオ用アニメーション「新テニスの王子様」、その他ゲーム用・CM用のアニメーションを制作いたしました。

以上により、当事業の売上高は788,061千円（前年同期比21.4%減）、セグメント損失は18,221千円（前年同期は131,109千円のセグメント利益）となりました。

出版事業

出版事業におきましては、月刊誌「コミックブレイド」「コミックアヴァルス」、コミックス「flat」「にくくてあまい」等、定期月刊誌6点並びに新刊コミックス28点を刊行しました。また、既刊の「flat」シリーズ、「ヨメさんは萌え漫画家」は、特に販売好調でありました。なお、ウェブ雑誌であるEDEN、Beat's及びケータイサイトで連載された作品のコミックスの刊行は8点となり、ケータイ配信を含む有料課金での電子配信を26作品追加しており、合計197作品となっています。

以上により、当事業の売上高は241,444千円（前年同期比26.9%減）、セグメント損失は46,506千円（前年同期は17,457千円のセグメント利益）となりました。

著作権事業

著作権事業におきましては、「009 RE:CYBORG」「BLOODシリーズ」「テニスの王子様シリーズ」「輪廻のラグランジェ」等の二次利用による収益分配を計上しました。

以上により、当事業の売上高は159,053千円（前年同期比60.3%増）、映像マスターの減価償却費が増え、セグメント損失は27,022千円（前年同期は10,693千円のセグメント利益）となりました。

その他

その他の事業につきましては、雑誌のイラストやキャラクターの商品化、人気コンテンツである攻殻機動隊のSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）ゲームや iPhone/iPod Touch 向けアプリ等により当事業の売上高は64,715千円（前年同期比147.0%増）となり、セグメント利益は3,829千円（前年同期は9,803千円のセグメント損失）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末の資産につきましては、前連結会計年度末に比べ103,416千円減少し6,582,615千円となりました。主な要因は商品及び製品が134,169千円、映像マスターが90,488千円、前渡金が52,500千円増加し、一方、現金及び預金が212,860千円、仕掛品が178,857千円減少したことによるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ103,536千円減少し2,495,214千円となりました。主な要因は前受金が102,603千円、未払金が35,950千円増加し、一方、買掛金が123,420千円、未払法人税等が87,699千円減少したことによるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ119千円増加し4,087,401千円となりました。主な要因は少数株主持分が138,269千円増加し、一方、四半期純損失の計上等により利益剰余金が138,182千円減少したことによるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	150,000
計	150,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年8月31日)	提出日現在発行数(株) (平成24年10月15日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引 業協会名	内容
普通株式	48,952	48,952	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	当社は単元株制度は 採用しておりません。
計	48,952	48,952		

(注)「提出日現在発行数」欄には、平成24年10月1日以降この四半期報告書提出日までの新株予約権の権利行使により発行されたものは含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成24年6月1日～ 平成24年8月31日	-	48,952	-	701,400	-	1,872,615

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年5月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成24年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,204	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 47,748	47,748	-
単元未満株式	-	-	-
発行済株式総数	48,952	-	-
総株主の議決権	-	47,748	-

【自己株式等】

平成24年8月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社 I G ポート	東京都武蔵野市中町二丁目1番9号	1,204	-	1,204	2.46
計	-	1,204	-	1,204	2.46

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成24年6月1日から平成24年8月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成24年6月1日から平成24年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年5月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,758,543	1,545,682
受取手形及び売掛金	878,721	851,595
商品及び製品	120,088	254,257
仕掛品	873,315	694,458
貯蔵品	5,960	6,187
前渡金	241,500	294,000
繰延税金資産	79,297	64,561
その他	57,285	143,301
貸倒引当金	1,478	2,047
流動資産合計	4,013,235	3,851,997
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	814,350	802,660
土地	838,506	838,506
映像マスター(純額)	438,527	529,015
その他(純額)	40,941	51,621
有形固定資産合計	2,132,325	2,221,804
無形固定資産		
のれん	145,153	138,478
その他	14,437	14,093
無形固定資産合計	159,591	152,572
投資その他の資産		
投資有価証券	180,208	158,701
その他	221,240	210,970
貸倒引当金	20,569	13,431
投資その他の資産合計	380,879	356,240
固定資産合計	2,672,796	2,730,617
資産合計	6,686,031	6,582,615

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年 5月31日)	当第 1 四半期連結会計期間 (平成24年 8月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	603,593	480,173
短期借入金	300,000	300,000
1年内返済予定の長期借入金	39,996	39,996
未払金	107,564	143,514
未払法人税等	88,174	474
前受金	906,019	1,008,622
賞与引当金	-	25,563
役員賞与引当金	3,581	-
返品調整引当金	49,000	48,600
その他	191,237	145,194
流動負債合計	2,289,165	2,192,138
固定負債		
長期借入金	259,180	249,181
退職給付引当金	34,459	34,487
その他	15,946	19,407
固定負債合計	309,585	303,075
負債合計	2,598,750	2,495,214
純資産の部		
株主資本		
資本金	701,400	701,400
資本剰余金	1,842,569	1,842,569
利益剰余金	1,616,293	1,478,111
自己株式	72,870	72,870
株主資本合計	4,087,393	3,949,210
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	111	78
その他の包括利益累計額合計	111	78
少数株主持分	-	138,269
純資産合計	4,087,281	4,087,401
負債純資産合計	6,686,031	6,582,615

(2) 【 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【 四半期連結損益計算書】

【 第 1 四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第 1 四半期連結累計期間 (自 平成23年 6 月 1 日 至 平成23年 8 月31日)	当第 1 四半期連結累計期間 (自 平成24年 6 月 1 日 至 平成24年 8 月31日)
売上高	1,457,594	1,253,274
売上原価	1,163,019	1,174,715
売上総利益	294,575	78,559
返品調整引当金戻入額	500	400
差引売上総利益	295,075	78,959
販売費及び一般管理費	165,559	184,591
営業利益又は営業損失 ()	129,515	105,632
営業外収益		
受取利息	158	142
受取配当金	10	-
投資事業組合運用益	406	53
受取賃貸料	9,573	8,515
その他	511	1,204
営業外収益合計	10,659	9,915
営業外費用		
支払利息	1,780	1,621
為替差損	398	80
投資有価証券評価損	-	1,540
賃貸収入原価	7,867	6,494
その他	1,284	0
営業外費用合計	11,331	9,735
経常利益又は経常損失 ()	128,844	105,452
特別損失		
固定資産除却損	414	225
特別損失合計	414	225
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失 ()	128,429	105,677
法人税、住民税及び事業税	39,353	605
法人税等調整額	2,778	14,909
法人税等合計	42,131	15,515
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失 ()	86,298	121,193
少数株主利益	-	16,989
四半期純利益又は四半期純損失 ()	86,298	138,182

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年6月1日 至平成23年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年6月1日 至平成24年8月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	86,298	121,193
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	40	32
その他の包括利益合計	40	32
四半期包括利益	86,338	121,160
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	86,338	138,149
少数株主に係る四半期包括利益	-	16,989

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

(1) 連結の範囲の重要な変更

当第1四半期連結会計期間より、平成24年6月1日付で設立しました株式会社ウィットスタジオ及び、新たに出資した「009 RE:CYBORG」製作委員会の合計2社を連結の範囲に含めております。

(2) 持分法適用の範囲の重要な変更

当第1四半期連結会計期間より、製作委員会2社は、四半期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。

【会計方針の変更等】

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年6月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これによる当第1四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年6月1日 至平成23年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年6月1日 至平成24年8月31日)
減価償却費	87,125千円	172,778千円
のれんの償却額	6,674	6,674

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成23年6月1日至平成23年8月31日)

配当に関する事項

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成24年6月1日至平成24年8月31日)

配当に関する事項

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成23年6月1日至平成23年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	映像制作 事業	出版事業	版權事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,002,009	330,169	99,218	1,431,396	26,198	1,457,594
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	1,002,009	330,169	99,218	1,431,396	26,198	1,457,594
セグメント利益又は損失 ()	131,109	17,457	10,693	159,259	9,803	149,456

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、原稿(雑誌のイラスト)や商品販売等を行っています。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位: 千円)

利益	金額
報告セグメント計	159,259
「その他」の区分の利益	9,803
のれんの償却額	6,674
全社費用(注)	13,266
四半期連結損益計算書の営業利益	129,515

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成24年6月1日至平成24年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	映像制作 事業	出版事業	著作権事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	788,061	241,444	159,053	1,188,559	64,715	1,253,274
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	788,061	241,444	159,053	1,188,559	64,715	1,253,274
セグメント利益又は損失 ()	18,221	46,506	27,022	91,750	3,829	87,920

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、原稿(雑誌のイラスト)や商品販売等を行っています。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	91,750
「その他」の区分の利益	3,829
のれんの償却額	6,674
全社費用(注)	11,036
四半期連結損益計算書の営業損失()	105,632

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年6月1日 至平成23年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年6月1日 至平成24年8月31日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()	1,807円36銭	2,894円00銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額() (千円)	86,298	138,182
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純損失金額()(千円)	86,298	138,182
普通株式の期中平均株式数(株)	47,748	47,748
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

- (注) 1. 前第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 当第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年10月12日

株式会社 I G ポート
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 芝田 雅也 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 森田 健司 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社 I G ポートの平成24年6月1日から平成25年5月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成24年6月1日から平成24年8月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成24年6月1日から平成24年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社 I G ポート及び連結子会社の平成24年8月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲には X B R L データ自体は含まれていません。